

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月30日(水)

### 《律法の精神とは》

今日の福音は（マタイ 5・17-19）誰でも分かっています。イエス様が来られた理由は、律法や預言書の預言された全ての内容、それを「廃止するために来たのではなく、完成するために来た」というイエス様のはっきりした言葉ですね。

さあ、私達は色々な法律に縛られています。教会の中にも教会の法律があります。少しさかのぼってみますと、律法にも表に出ているものは、613項目あり、色々な細かいところまで話されているものがあります。もっとさかのぼってみますと、いわゆる十戒、「十の戒め」というものがあります。それをさらにさかのぼると、申命記の「神様を愛し、隣人を愛しなさい」という基本的な自然法がちゃんと出来ています。もっとさかのぼると一つの文字にまとめられます。それは“愛”です。結局全ての律法の一番上のところは“愛”です。皆様よくご存じのことと思います。

イエス様が人々を批判した、叱ったその理由は、預言書に書かれている内容や、律法に書かれている色々な内容のためではありません。その精神を守ってくれなかった、その人々のことを叱ったわけです。

有名なインドのガンジーという人を皆様ご存知だと思います。ガンジーはこのように言います。「私達は毎日聖書を読んでいます。そして、イエス・キリストを尊敬しています。しかし、私は、そのイエスを信じている人々は信頼できません」と。なぜなら、キリスト教を信じているイギリスが自分の国を攻めたからです。聖書の福音を読んで教えに従おうとすれば、他国を攻めることなど出来るはずがないのに、キリスト教の国であるイギリスがインドを攻め支配し、民を悩ませた事を訴えたのでしょう。

さあ、とにかく私達がいつも錯覚しないように、私達に定まった法律、掟がある時に、その精神は何であるかいつも意識するべきだと思います。「なぜこの法律を守らなければならないか。」と考えてみますと、たまには状況によって、自分に損になっても、柔軟性をもって相手への配慮する心が生じると思います。

今日の福音を読んで二つのことを思い出しました。一つは懸命に生きることは大事なことです。一生懸命に頑張って生きることはいいことです。しかし懸命に生きることと、よく生きることは違います。実際に人間の歴史を振り返ってみますと、一生懸命、命がけでやって来ても、間違えたことが沢山ありました。もちろん綺麗に言って、試行錯誤。「失敗はいつか成功に至る」と、自分達の歴史を美化するところもあるのですが、実際に一生懸命生きることがよく生きることではありません。

例えば、船に乗って一生懸命に漕ぎ出します。しかし、方向を間違えたら何の意味があるのでしょうか。一生懸命生きることは基本的な姿勢で、確かなことです。けれども信者である私達なら知恵が

必要です。神様に「正しい道に生きられるように力付けて下さい」と、祈りを求めることも必要です。何よりも方向を設定することが必要であること、それが一番大事なことではないかと思えます。皆様、正しい方向に向かって一生懸命生きること、これが大事なことではないかと思ってみました。

もう一つのことは、皆様何かあった時に、すぐあきらめる方でしょうか。「私には無理よ、出来ないよ。」というタイプでしょうか。根性をもって「これは必ず乗り越える」というタイプでしょうか。客観的にご自分のことを考えてみましょう。私はそういう面で根性がある方だ、否、そうではなく私は心が優しくて譲る方だと思方でしょうか。

さあ皆様、全てのことは、全部譲ってもいいのです。しかしご自分のことに関しては諦めないで下さい。どういう意味かと申し上げますと、ご自分にとってこれは永遠の命に係わることだと思われることは諦めないで下さい。結局、それが一番大事なことではないでしょうか。永遠の命と真の幸せに関係ないものは全部捨てて下さい。あってもいい、なくてもいい。本当に自分の命と係わるものだけにこだわって下さい。それが今日の福音で「廃止するためではなく、完成させるために来た」というイエス様の御心を量ることになるのではないかと思います。

ありがとうございました。